《第１５０号》　2010年５月創刊　　５月７日発行　2023年５月号

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

聖霊降臨日

～思い起こさせる聖霊～

･･･聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。(ヨハネ福音書１４：２６)

５月最後の日曜日の５月２８日、聖霊降臨日・ペンテコステの祝日を迎えます。

復活日から５０日目、エルサレムにて家に集まっていた弟子たちに聖霊が降りました。これが使徒言行録２章１節以下に記された聖霊降臨・ペンテコステの出来事であり、復活日・イースター、降誕日・クリスマスと並んで祝われるべき、キリスト教の三大祝日の一つです。この時、聖霊が弟子たちに降り、彼らは力を与えられてキリストの福音を世界に宣教する者となりました。そして今現在も教会は福音を宣教しています。ですから聖霊降臨日は教会という存在の誕生を祝う日でもあります。

そして今、私たちが神の存在、神の導きや守りを感じるのは、全て聖霊の働きによるものです。この聖霊の働きについてはとても一言ではいえませんが、冒頭の聖句、ヨハネ１４：２６にその一端が記されています。そこには聖霊について、聖霊が全てのことを教え、そしてイエスの言葉を想い起こさせると語られていました。

しばしば親や祖父母、あるいは恩師が語った言葉がずっと後に、多くはその人たちが亡くなった後に、人生において大切なことを教えてくれていたと理解できたということを聞きます。

イエスのみ言葉についても、イエスが地上に生きて、弟子たちと共におられた時にイエスから語られながらも彼らに理解できなかった言葉や事柄が、イエスの十字架と復活、そして聖霊降臨後に、まるで封印が解かれたかのように理解していくということが起こりました。その封印を解くような働きこそが聖霊によるものだということです。

そしてこのことは今の私たちにおいても起こることだということです。

まず聖書を読んで、そこに書かれていることが、自分にとても大切な導きになるという時には、聖霊が働いて下さっているからこそ、そうした理解が出来るのです。

また既に聞いていた、読んでいたイエスのみ言葉が、時として心に迫る導き、慰め、励ましの言葉として心の奥から納得できる瞬間があります。その時、私たちに聖霊が働きかけて下さっているのです。

しかしそのためには、まずは御言葉を聞き、それを心に留めていなければなりません。そのためにこそ常に聖書に親しむことが大切なのです。私たちが聖書や信仰的学びの機会を大切にして、そして聖霊の働きによってみ言葉の豊かさ、恵みに触れられますよう、そして聖霊、即ち神様がともにおられることの喜びに与かれますことを共に求めて参りたいと思います。